

一般社団法人

日本人間関係学会ニュース 第101号 発行日:2021.8.26

News No.101 Japan Association of Human Relations August 26 2021

発行: 日本人間関係学会 広報委員会 E-mail: tanikawa@kusw.ac.jp 関西福祉大学 谷川和昭研究室
事務局: 〒799-2496 愛媛県松山市北条660 聖カタリナ大学人間健康福祉学部 釜野研究室
E-mail: jahrijimukyoku@gmail.com URL: https://jahj.jp/

[内容] ☆理事長挨拶 ☆北から、南から ☆順子の映画鑑賞記⑤ ☆近刊紹介 ☆事務局だより ☆全国大会予告

《理事長挨拶》

学会ニュース第101号発刊の新たなる出発に祈念して

理事長 早坂 三郎
(甲子園短期大学学長)



学会ニュース第101号の発刊に際し、改めまして深い感慨を抱くものがあります。

現在、そしてこれからの社会を考えると、先ず最初には次々と現れる変異株のコロナウイルス感染の

爆発的拡大が挙げられましょう。耐性菌という枠では時間的にも捉え難い地域名とかアルファ株にはじまるベータ・ガンマ・ラムダ・デルタの名称を冠したウイルス感染は、当初の第1波・第2波どころか、今回の第5波のこれ迄にない急速な感染拡大等では収束しないことが予想に難しくなりました。これからの社会には、いろいろな意味でのコミュニケーション障害と人間関係の希薄化が懸念されます。

そんな中、企業や大学をはじめとするテレワークやオンライン授業に関連して、AI化とかICT教育が声高に叫ばれ始めています。逆にこれ程迄に、日本のAI化が遅れを取っていたかと、臍を噛み締めること頻りであります。本学会も結集して、これからのAI化社会におけるコミュニケーションと人間関係の展開について考えなくてはなりません。

さらには、激甚化する自然災害は、地球温暖化をはじめとする様々な人間のエゴによる原因が異常気象や絶滅の危機をもたらしています。加えて巨大地震の高い発生予測確率が不安を高め、ためにSDG s

への取組が全世界的に必要なようになってきています。

まさに、世界的変革が必要な時期といえましょう。AI化による社会構造、常識と生活スキル、生産手段と経済・産業のビジネス活動、脱化石燃料によるエネルギー革命など、ありとあらゆる分野・領域での変化と変革が待たなしで、まるで津波のように襲ってくることは必至で、明治維新と産業革命が一緒にやってくるどころの比ではないと受け止めています。

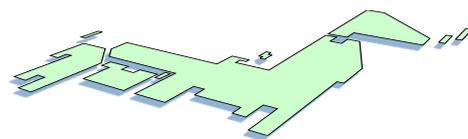
そんなこれからの社会にあって学会ニュース第101号のリスタートを切るとは、改めて学会の役割と機能により、さらに社会への貢献への気づきの契機となり、学会活動を広報する本学会ニュースへの役割と期待は益々膨らむ一方であると考えます。その意味でも、とりわけ学会ニュースの編集を担当して戴いている広報委員会委員長である谷川和昭先生のご努力に心からの敬意を表したいと存じます。また、全国に広がる会員の皆さんとの交流の拡大と、新たな人間関係を構築し展開して頂ける切っ掛けとなりますことを願い、第101号発刊にあたっての所感を付してのご挨拶とさせていただきます。

最後になりましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の一日も早い収束を願うと共に、会員の皆様の息災をお祈りし、併せてこの折にこそ本学会の使命と貢献について、会員各位からの様々な形での協力・提案を切望するものであります。

(2021.8.18)

北から、南から

リスタートを記念し、今号も拡大バージョンでお届けします！



やってみよう！

原子 純(久留米大学)

こんにちは！😊 久留米大学の原子 純です。私の専門は、児童学・乳幼児教育学です。

就学前教育では、子どもたちが遊びにおいて“試行錯誤(trial and error)”することが大切です。遊びや様々な経験の中で「やってみよう！」ということが、とても重要です。

イマドキではこの試行錯誤は、育みたい資質・能力とも深い関係がありますが、私はそのことよりも、やはり「やってみよう！」=

trial≡try という想いがポイントだと感じます。TryがなければErrorは、起こらないです。Errorすることを恐れてTryしなければ、大げさに言えば何も始まらない。それは、むしろ乳幼児期だけではなく、大人にもあてはまるのではないかと思っています。

大人になっても「やってみよう！」と前向きになると、ちょっとだけ人生が豊かになるのではないのでしょうか？(そんなに、都合よくはないですかねえ?? 笑)

私の「やってみよう！」おススメは、一人旅です。一人旅の魅力は、気ままさもありますが、情報が直ぐに手に入る現代の中で、現地で現地のことを自分自身でgetすることをおススメします。それをするには、



時間や心の余裕やゆとりが必要ですが、便利な時代だからこその、あえての「やってみよう！」です。行き当りバッタリ的でもあります(笑)、心構えのある行き当りバッタリのため、何が起きて、時にはハズレ≡Errorでも「これもアリか」と、想定外の発見を楽しめる自分があるハズ(?!?)です😊。そこから、「じゃあ、次はこうしよう」や「次こそは」と、次への期待をもつこともできます。これこそが、【ワクワク、ドキドキ】のように思います。私は、この【ワクワク、ドキドキ】が人生を豊かにすると思っています。

小さな島国の日本でも、たくさん魅力があります。まずは、いま住んでいる街をブラブラしてみるのもよいのではないのでしょうか！！

〔コロナ禍が終息し、自由に旅行ができる日を願って〕

こころ おどる できごと

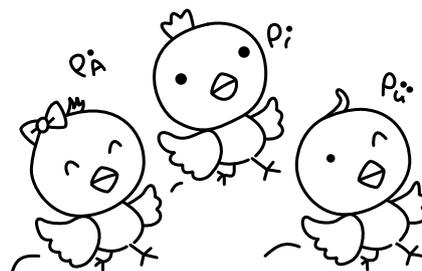
中村美智代(龍谷大学短期大学部)

私は、知的障がい者と学修支援を通じて協働する「オープンカレッジふれあい大学課程(ふれあい大学)」を担当しています。この講義は2002年度からスタートしており、福祉系プログラムの「障害者共育プログラム(障がい者と共に学び、共に生きる力の習得をめざす!)」の実践の場です。科目としては「社会福祉学特殊講義Ⅲ(障がい者学習支援)」「社会福祉学特殊講義Ⅳ(音楽療法)」「社会福祉学特殊講義Ⅴ(演劇療法)」の3科目があり、通年で開講して単位認定をしています。

ふれあい大学課程を受講する学生には、知的障がいのある人達への学習支援・交流支援を通して、支え合い、分かち合って生きる「共生の実践力」を身につけることを到達目標としています。その実践力は、障がい者の生涯を通じた学習活動の充実が求められている現状を理解し、社会全体が多様性を受け入れる環境づくりを進め、すべての人々が地域、暮らし、生きがいを共に創り高め合う地域共生社会を実現することにつながります。



この講座に参加していると、私自身いつも気持ちがおどるのです。それは、参加者みんなが学びたい、楽しみたい、という一体感を持ち、とても充実した時間を過ごせるからです。2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響でふれあい大学課程は休講となりましたが、授業は学生のみで進めました。障がいについての学びやコミュニケーションの技法、レクレーションの実践や学生が企画する講座の模擬授業のプレゼンテーションなどに取り組みました。2021年度も4月から授業の開講を模索しながら準備を重ね、7月6日にやっと開講式を開催することができました。新しい生活様式となって例年と同様には進められないこともあります。ふれあい大学課程の今後の展開を、ふれあい生、学生共々期待しています。



学会ニュース100号達成、おめでとうございます。

＝学会の益々の交流と研鑽を期待します＝

上原貴夫(佐久大学 客員教授)

学会ニュースが100号を達成。ここまでの到達、感無量の気持ちがあります。学会発足当時を思い出します。ほとんど毎月、文字通り北から、南から東京に集まり議論をしていました。学会大会のこと、部会の創設や資格の創設、もちろん学会ニュースのことも。よくあんなに議論の種も尽きないほどに話し、考え、もちろんそのための膨大な資料も作ったもの、と思い出します。

学会ニュースを通してますますの交流や情報交換が増えて、学会および会員の顔が見える会に進展していくことを期待し、信じています。



私ごとですが、現在、学生さん達と「ながの県森と自然の保育園」と名付けた保育活動を行っています。月に1～2回のペースで週末に行っています。「週末型自然保育」と名付けています。

長野県では2015年に「自然保育認定制度」を設けました。認定制度創設の検討委員会の委員長は私が務めさせていただきました。現在長野県では200を超える幼稚園、保育園が認定を受けています。その後、「認証制度」といっている県もありますが鳥取県、広島県、滋賀県などに広がりを見せています。これに関心を持つ全国の知事が集まった「森と自然の育ちと学び自治体ネットワーク」も結成されています。

2015年には「日本自然保育学会」が創設されています。関心を持っていただけた方はそちらも見ていただけると様子が一層わかると思います。

自然保育ともつながる就学前の活動では「森の幼稚園」があります。デンマーク、ドイツなどで始まり、日本にも紹介されているものです。文字通り森を活用して、幼稚園活動を行っていくものです。「自然保育」は森だけでなく田畑などでの活動、栽培や園芸を取り入れた保育、地域の神社・お寺の境内や広場、原っぱ、地域行事なども取り入れて「体験」を大切にした保育を行っていくというものです。長野県は森が県全体の約80%に広がる森林県です。もちろん「森」も保育のフィールドとしていますが、この自然保育の広い考えを取り入れています。

森の中で子ども達は本当にのびのびと、自由に、存分に自分の気持ちを発揮して動き回り、考え、工夫をしていきます。自分の力で、あるいは仲間と協力して目を輝かせながら、いろいろなことに気づき、不思議を見つけ、疑問を持って自



分の力や知識にしていきます。

学生さんも入って一緒に保育活動をしていきますが、子ども達ばかりでなく、これに携わってくれている学生さんもとても大きく変わっていきます。学生さんの成長ぶりにも大きなものがあります。そもそも若い学生さんたちは、森という自由な空間の中で、笑顔いっぱいの子もたちと動きまわるのは大好きなようです。

私たちの「ながの県森と自然の保育園」は長野県佐久市にあります「望月少年自然の家」をフィールドとしています。活動の様子や年間の日程やテーマはフェイスブックでも見るができます。ご覧ください。いつでも見学、体験が可能です。学生さん、子どもさんとの「お試し体験」も歓迎しています。遊びに来てください。子ども達も大歓迎します。

長野県全体の様子は県が運営する「やま保育」のポータルサイトから見るができます。

どなたか発案される方がおられましたら「語り旅」等で信州へどうぞおいでください。僭越ですが私達の「森と自然の保育園」へもお出かけください。就学前の子ども達を交えた楽しく、うれしい人間関係が体験できます。コロナの状況ですが、このような時であっても人と人との関わりは大切です。子どもの成長にとってはなおのことです。

場所は長野県佐久市です。東京から新幹線でおよそ1時間、佐久平駅下車です。隣は軽井沢です。長野市善光寺も至便です。車では上信越自動車道の佐久I.C、軽井沢I.Cでも便利です。

歓迎します。

注) 写真は「森と自然の保育園」の様子。順番に、
シンボルボード → 広い森が保育のフィールド
→ 森ウオーク



おうち時間の活用

永野典詞(九州ルーテル学院大学)

昨年(2020年2月ごろ)から、世界中が新型コロナウイルス感染症(以下、「コロナ感染症」という。)の猛威にさらされ、私たちは見知らぬものへの恐怖と戦い、そして、これから生きるための新しい生活様式が求められています。

この機会に、私はコロナ感染症をただ怖がるのではなく、新たな自分自身の始まりと思っています。そこで、私が「おうち時間」として、新たに取り組んでいる瞑想(マインドフルネス)とヨガについてお伝えしたいと思います。

まず、瞑想です。瞑想をはじめたのが2020年2月でちょうどコロナ感染症の感染拡大が始まった時期と同じです。瞑想をはじめたきっかけは、「目指す自分の姿」として、「寛容ですべてを受けとめることができる人」になりたいな、と思ったことがきっかけです。スマホアプリを利用して、1日5分からはじめました。現在では、毎日朝昼夜に1時間程度、瞑想を続けています。その効果は絶大です。心の安定として怒りやイライラ感、不安のコントロールが上手くなりました。また、思考がクリアになり、研修や講演会で目の前に文字が現れるように、自分の考えを伝えることができるようになった、と感じています。





次に、2021年1月からはじめたヨガです(こちら
もスマホアプリを使用)。ヨガをはじめたきっかけ
は、体の柔軟性と集中力の養成です。しかし、私は
身体が硬いためにヨガのポーズが上手くできずにと
とも苦労しています。上手くできないと、楽しくな
いのです。何とか毎日、少しずつ続けてきた結果、
半年程経った6月初旬、「前屈して手のひらが地面に
着くこと」に気づいたのです。それは、ふとしたき
っかけでした。それは、ロードバイクに乗って
いる時に、「あれ、もしかして体が柔らかくなった？」
という感じです。



早速、前屈すると手が地面に着くではないですか。それからは、楽しくな
ってヨガに積極的に取り組むようになっていきます。少しでも成長を感じることができると、人は、物事に
積極的に取り組むことができることを自分自身でも体感しました。

私が瞑想とヨガで気づいた3つのことは、1点目が、今を大切に生きること、2点目が、少しの成長が
明日につながる事、3点目は、継続するとは複利の力で成長できる、ということです。今だからこそ
気づけたのかなと思っています。

このように、「おうち時間」を楽しみながら、自分の成長につながることを願っています。

最近よく聞かれる事

清川照美(株式会社タイヨー 取締役副社長)



「なぜ、そんなに元気なのですか？」

気が付けば63歳、いつも楽しそうに仕事をして悩みなんてあるの
ですかと言われる。自慢出来る事はかなりの修羅場をくぐって生きて
来た事ぐらいですが、ありがたい事に多くの方にはそうは見えないら
しいのです。この能天気な性格は高校一年生の時に一冊の本エレン・ポ
ーター「少女パレアナ」の影響を受けています。全てはポジティブシン
キングで生きてきました。心の元気はこの本のおかげです。

体の元気は別に特別な事はしていないつもりですが周りの人に言わ
せれば、かなり特別らしい。一例としては一日に朝・夜二回お風呂に入
ります。疲れた日は自然塩を一握り入れ、毎回一五分くらい本を読んでいます。

濡れたままボディクリームを付けてマッサージ、歯磨きをしながら機械でお腹のマッサージ、お風呂
の習慣も20年ぐらい続けています。良いと思った事は小さく長く歯磨きをする位の気持ちで沢山の習
慣を作っています。

頑張り過ぎない事だと思います。

元気の一番の源は食事です。「何を食ったら元気ですか？」これもよく聞かれます。一番は体に合わ
ない物は食べない。「どうやって体に合わないかわかるのですか？」疲れを感じる食べ物です。私の
場合は添加物、特に防腐剤の入っている物です。又、これも小さな習慣の一つですが一週間に一回人
参をジュースにして飲みます。毎日の生姜入りのお茶小豆を煮たり玄米を冷凍して、料理も作りたくな
い日のメニューは決めておきます。するととても楽です。自分が元気が無くなった日は自分の為にお花
を買います。自分が自分の事を好きになれるように努力しています。

大切な「間」の取り方について

武藤大司(フリーランス)

はじめまして。武藤大司と申します。損害保険会社、社会福祉実践、大学短大専任教員を経て、妻を亡くしたことを機に神戸に戻り、現在は成年後見人受任、大学非常勤講師、スクールソーシャルワーカー等、フリーランスをしております。

自己紹介として、いつも行っている自己紹介ネタを今回披露させていただきます。

「私はコーヒーが好きなのですが、私の研究室には砂糖は置いていません。さてなぜでしょう。」

皆さんは正解がわかりますでしょうか。

その1として、真顔で「ダイエットの為」と答えてくださる方がおられますが、私としましては「くだらないものにつき合わせてしまったので、誠に申し訳ありません」との心情になり、その後続くであろうこのネタのオチが苦行に代わります。

その2として、すぐに正解がわかって、ニヤニヤしている方がおられますが、この反応はとても嬉しく、「何も言わないでくださいね」と心で祈っております。

その3として、考え込んで黙ってしまっている方がおられますが、「もっと悩んで！もっと悩んで～！正解を知った時の落差(くだらなさの点で)を体感できますよ～」って気になって、私はウキウキしながらその方々を眺めております。

ひととおり皆様の反応を楽しみながら、ようやく正解を発表します。ここでの注意点は「間」の取り方です。この「間」がうまいかないと、全くウケませんし、スベリ芸にもなりません。

大成功パターンとして、【大爆笑】がありますが、関西人としては誇らしい思いに至ります。一瞬の沈黙の後の大爆笑は、何にも代えがたい至福の時を過ごすこととなります。

中成功パターンとして、【失笑】がありますが、これもある意味期待しています。教授会で皆さん緊張しながらフォーマルな自己紹介をされる中、印象に残すことができず本望です。

最悪パターンは、【沈黙の継続】、【意味が分からず隣席と話し合う】です。どう反応してよいかわからない反応はこちらとしてもどう反応してよいかわからず、ネタのオチを解説されるなどという屈辱的な空気には到底耐えられません。

以上、《BLACK無糖》からの自己招待ネタでした。



コロナ禍後の1年半を振り返って

酒井貴広(早稲田大学文学学術院)

2018年度から都内の早稲田大学でいくつかの授業を講義しています。早稲田大学は2020年度春学期にコロナ禍への対応から授業を全てオンラインに移行し、2021年度春学期時点でも多くの科目をオンライン上で開講しています。この1年半は学生、教員双方に様々な影響を及ぼし、私自身も授業を進めていく過程で気付くことが沢山ありました。

まず、オンライン授業での学習効果だけに目を向けると、その効果は意外に高い可能性もあるのではないかと感じました。私は日本民俗学やサイバー空間上のコミュニケーションをテーマとする授業を担当していますが、提出された課題を見ると、履修生の理解度はオンラインの場合でも対面の頃とほぼ同等でした。加えて、オンライン授業への出席率は曜日時限を問わず高くなっており、履修生全体を俯瞰するとオンライン授業のほうがより効率的な学習効果を生んでいるとも感じられます。

一方、学生からオンライン授業への意見を募ったところ、多くの不満が寄せられました。中でも私が興味を引かれたのは授業形式に対する不満でした。2020年度春学期に授業を実施する際、履修生に①資料配布のみ、②資料配布と解説動画の公開、③オンラインでのリアルタイム授業の3種から希望する授業形式を選択してもらったところ、結果は①から③までほぼ均等となりました。この結果に鑑みると、どのようにオンライン授業を実施しても、学生から授業に対する不満が出てしまうとも考えられます。希望者のみが参加するリアルタイム授業を行い、授業の様子と配布資料をアーカイブ化して公開すれば大部分の要請に応えられますが、そのためには機材やプラットフォームの整備も必要となり、学生・教員双方に新たな負担を課してしまうとも考えられます。

また、もっと単純に、キャンパスライフが楽しめないという不満が主に1年生から寄せられました。授業やサークルでの友達作り、各地への旅行など、大学生になってやりたいと考えていたことの大部分が失われたことへの不満は大きいようです。これまでは研究者目線から「Z世代」など別の世代として見てしまいがちだった現在の学生たちも、私が学生だった頃同様の夢や希望を抱いていることに改めて気付かされた次第です。

一刻も早いコロナ禍収束を願うとともに、より良く学び・遊ぶことのできる大学とはどういったものかを何度も考えさせられる1年半でした。

一年前のコロナ禍川柳（傑作選）

谷川和昭(本紙編集委員)

昨年、某大学授業の終了にあたって、川柳を任意で募集したところ、味わい深い、キレのある川柳を学生たちは寄せてくれました。あれから1年経ってしまっているものの、今あらためて見ても切実かつ心を和ませるような短詩が多く見受けられます。こんな時だからこそ、紹介をしておきたいなと思います。

友人と 会いたくなったら 自粛期間
明日から バイトが始まる まじで鬱
毎日が同じ生活変化なし
毎日が コロナの心配 もういやだ

日々の時間 コロナの話で すぐ過ぎる
冬が過ぎ 春夏過ぎても まだコロナ
おうち時間 増えていくのは 体重だ
暇すぎて きれいになるよ 部屋の中

咳一つ 睨まれ思う コロナちゃう
おうち時間 増えていくのは 体重だ
バイト先 売り上げ大半 マスクのみ
暇すぎて きれいになるよ 部屋の中
朝目覚め どこにも行けず また眠る
朝起きて リモート用の メイクする
人じゃなく 自粛すべきは コロナくん
人々の 楽しみ奪う コロナだね
乗らぬなら 乗るまで待とう ホトトギス
奨学金 みんなに配れ (放送禁止用語) 大学
暑すぎる今年の天気おかしすぎ
手洗いに うがいにマスク 滅! コロナ!
自宅から オンデマンドで 課題やる
自粛中 課題の山に 埋もれてる
自粛中 いつのまにか コロナ太り
自粛でも 変わらぬ生活 引きこもり
自粛しろ コロナのほうが 自粛しろ
施設代 使っていないのに 取られるん?
経済が 始まらないと 意味がない
帰り道 梅雨(露)に降られて 濡れる髪
慣れてない パソコン作業で 肩がこる
感染源 若者というより 都会人

外出時 必要メイクは 目元だけ
外出たい だけどコロナが 待っている
我慢して 乗り越えていこう コロナ年
課題しよ ノートを開くと 眠気来る
夏休み ああ夏休み 夏休み
夏花火 コロナはやって 不発弾
もうしんどい いつまで続く? この状況
マスクなし 外出したら 白い目線
ひきこもり コロナのせいで 家綺麗
なつかしい 前の生活 戻ってきて
コロナ禍を チャンスと捉え 生きていく
コロナ禍で 気軽に出れず しんどいな
コロナ禍で どこも行けずに 日が過ぎる
コロナ禍で 行けると思えば また休講
コロナ禍に なったとしても すぐ治す
がんばって やってきたから 単位ください
オンライン 心の壁が多いな 人付き合い
うちあがる 花火横目に きみをみる
ウェブカメラ 寝癖映らず 上機嫌
いつものね 何気ない日々 戻りたい
親友と 会う約束は いつ叶う
最初はね やる気もあるが 続かない

学生の川柳、いかがでしたか。私自身は、社会の変化、時代の流れへの敏感さを見て取れました。

次号、第102号の、**原稿募集**します! 2022年 **1月末締切**です。

お願いしたいのは、お一人あたり **400~1,000文字**程度です。

日々の生活で感じたことや、思い浮かんだこと、**どんなことでも結構**です。

お便りに載せてください。

また、**俳句や短歌、詩**などの発表も大丈夫、受け付けています。

地域で語り伝えられる**民話**や、その土地その土地の**珍しいお話**などもお寄せください。

旅行の思い出や、紀行。人生で**とっておきの話**。皆さんに**お話をしたいこと**。

皆さんのお気持ちのお話をお聴かせ下さい。

2022年2月に発行予定です!

送付先 広報委員会(谷川)まで tanikawa@kusw.ac.jp

映画はフィクションだけの世界ではない。ドキュメンタリーや実話に基づく作品は、知らない世界や現実を教えてくれ、それゆえに感動的でもあるし琴線に触れる作品も多い。

昨年に公開された実話ベースの映画10作品を紹介し、鑑賞をお勧めしたい。

- ① 「黒い司法 0%からの奇跡」 2020年2/28 公開。実在の弁護士のブライアン・ステイブソンが冤罪の黒人の死刑囚たちのために奔走し、闘う姿を描く。マイケル・B・ジョーダン主演。
- ② 「グレース・オブ・ゴッド告発の時」 2020年7/17 公開。神父による児童への性的虐待事件「プレナ神父事件」の真相に迫った作品。メルヴィル・プポー主演。
- ③ 「1917 命をかけた伝令」 2020年2/14 公開。第一次大戦が舞台。若きイギリス兵の二人が重要な伝令のために、危険が伴う敵地の中を縫うように目的地に進む姿を描く。息遣いまでが、リアルな緊迫感をもたらす。ジョージ・マッケイ/ディーン・チャールズ=チャップマン主演。
- ④ 「ラスト・ディール 美術商と名前を失くした肖像」 2020年2/28 公開。主人公の老人が幻の名画としたイリヤ・レービンの絵をめぐる、すれ違う家族の想いを描き出す作品。ヘイキ・ノウシア主演。
- ⑤ 「薬の神じゃない！」 2020年10/16 公開。2014年に中国で起きた医薬業界を描いた映画。命を守るのにお金？ 国？ コロナ禍だからこそ『命の値段』について考えてみたい。シュー・ジェン主演。
- ⑥ 「フォード vs フェラーリ」 2020年1/10 公開。時間耐久レースの『ル・マン』を舞台として、1966年のレースが再現される。常勝フェラーリに挑むフォードのエンジニアとドライバーの意地とプライドをかけた姿を描く。マット・デイモン/クリスチャン・ベール主演。
- ⑦ 「ハリエット」 2020年6/5 公開。奴隷解放運動に命をかけた黒人のハリエット・タブマンに焦点を当てた伝記映画。シンシア・エリヴォ主演。
- ⑧ 「オフィシャル・シークレット」 2020年8/8 公開。2003年イラク戦争開戦に向け、違法な工作活動に一人の女性がその内容を告発する。キーラ・ナイトレイ主演。
- ⑨ 「博士と狂人」 2020年10/16 公開。異端の天才と称された二人が、『オックスフォード英語大辞典』の礎を築き、辞書を完成。その過程を描く。メル・ギブソン/ショーン・ペン主演。
- ⑩ 「リチャード・ジュエル」 2020年1/17 公開。クリント・イーストウッド監督作品。アトランタオリンピックでの爆破テロ事件の真相を描く。ヒーローから一転容疑者となった、リチャード・ジュエル。誹謗中傷が蔓延する社会にも警鐘をならした作品と言える。サム・ロックウエル/キャシー・ベイツ主演。

今年度においては 2021年7/30 公開された「アウシュビッツレポート」は、必見の映画だと言える。

アウシュビッツ収容所のおぞましさは、今でこそ誰でも知っているが、その実態はこの収容所を脱出した若者が伝えたからなのである。

1942年、アウシュビッツ強制収容所を脱走した二人の若いユダヤ人が、施設内の過酷で非道な

現状を記した報告書を提出。そのレポートにより12万人のユダヤ人の命が救われた実話を映画化している。

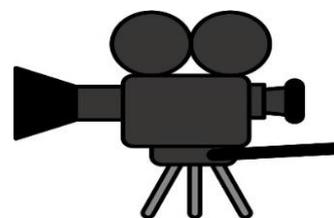
本作品の冒頭に「過去を忘れる者は、必ず同じ過ちを繰り返す」哲学者の言葉が引用される。私たちは過去の歴史から何を学んでいるのか。学ぼうとしているのか。何が変わったのか。変わらないのか。今の平和な時代にこそ、観てほしい映画の一つである。

実際に起こった事件や出来事をもとに数多くの映画が製作されてきたが、よりリアルさと客観性を追うのであれば、ドキュメンタリー映画となる。ここでは2作品を紹介したい。

2020年6/26公開の「ハニーランド 永遠の谷」は、北マケドニアで電気も水道もひかれていない谷で暮らす養蜂家の女性を3年間追った作品。「半分は自分に、半分は蜂に」の信条は、消費する私たちへの戒めであり、持たないことが自由だと教えてくれる。

2020年9/14公開の「行き止まりの世界に生まれて」は、さびれた閉塞感のある町で必死にもがく若者3人の12年間を描いたドキュメンタリー作品。事実だけを映像にのせて、人種、貧困、家族と、アメリカの現実と彼らの人生を映し出している。

映画は所詮「作り物」ですが、知らない国の歴史や文化を理解することができ、その人の人生や価値観を知ることができます。だから私は映画を観続けたいと思っています。



近刊紹介



日本福祉図書館学会・編集
『伝えたい福祉図書館文献』
学術研究出版
2021年9月30日発行
定価2,250円(税抜)

本書には日本人間関係学会の会員が複数名執筆参加している。2018年には早坂三郎理事長が基調講演の講師として協力されており、そのことは本書が「20周年記念誌」であることから、第1部第3章の「大会総覧」において確認できる。総頁数は350頁と少し厚めだ。

書店での店頭販売はなく、アマゾン等で購入可。以下、概要紹介。

この本は、前身の日本福祉士教育学会から名称変更をして20周年を迎える日本福祉図書館学会が当該名称を用いての最初の書籍である。日本福祉図書館学会は温故知新を旨とするが、20年間の想いを込め、歴史を踏まえて編纂している。第1部 日本福祉図書館学会のあゆみ、第2部 文献研究の成果と課題、第3部 福祉図書館文献解題、第4部 「福祉図書館文献研究」論文セレクション、という4部で構成している。第1部と第2部は会員歴の長い執筆者が筆を取った。第3部は会員から執筆者を募り、機関誌での特集掲載等を経て収録した。そして第4部は若手・中堅の執筆によるもので過去の機関誌に掲載されたものの中から改めてリーディングできるようピックアップしている。

事務局だより

【会員動向】（2021年2月21日～2021年8月26日）

2021年8月26日現在

会員138名（正会員：113名 一般会員：12名 準会員：13名 賛助会員：0）

〈入会者〉 正会員 1名 ※敬称略

・温泉 美雪

〈会員種別の変更〉 5名

〈退会者〉 4名（正会員：3名 一般会員：1名）

〈自然退会〉 22名（正会員：19名 準会員：3名）

【年度会費納入のお願い】

本学会は会計年度を10月1日～9月30日としております。本年2月に「第28回全国大会研究発表抄録集」等と一緒に年度会費の払込用紙を郵送致しました。2020年度会費のお支払いがお済みでない方は、年度中のお支払いをよろしくお願い致します。会費納入について、ご理解とご協力をお願い致します。

新型コロナウイルス感染症の終息がみえない中、今年も厳しい残暑が続くようです。皆さま、健康にはくれぐれもご留意ください。

全国大会予告

大会テーマ：コロナ禍における人間関係を考える（仮）

大会長：釜野鉄平（聖カタリナ大学教授）

開催：2022年2月（検討中）

主なプログラム：基調講演、シンポジウム（検討中）

抄録集の原稿募集について：メール及びHPで案内予定
（発表は誌上掲載のみです）

（編集後記）

第100号の記念号から早半年が経過しようとしている。目下の急務は新型コロナウイルス感染症への対応であるが、従来よりも感染力が高いとされるデルタ株に続き、ラムダ株も猛威を震うのではないかと恐れている。今号第101号の発行日である「8月26日」は、「人権宣言記念日」（1789）であり、「レインボーブリッジ開通記念日」（1993）でもある。「人間は生まれながらにして自由、平等である。」そのような関係が一層築かれるように、私たち会員もまた何かの“架け橋”になり続けていくことが期待されている。（谷川和昭）